

改訂版序

手の機能評価表は平成5年に発行された。その後、平成6年度機能評価委員会から改訂作業を始めた。改訂の目標は簡略化すること、前委員会で討議しきれなかった母指対立機能評価や手関節機能評価を追加すること、整理、編集の未完部分を整えることであった。各委員で項目を分担し、委員会で討論を重ねた。簡略化の方向として、共通書式を充実し、疾患、外傷の各項目での表や図を減らす方針をとった。最終的には簡略化できた部分があるが、共通書式を多用せざるを得ない部分ではかえって大変かもしれない。現段階では機能評価表は評価基準が確立されたもの、参考となる評価基準を含むもの、症例記録表にとどまるもの（目次解説参照）が混在している。従ってすべての項目で成績評価ができるところまで成熟していない。今回幾つかの項目では多用されている評価基準を参考として挙げ、成績評価がしやすいように努めた。より十分なものにするには次の委員会での成績評価基準の検討が必要である。妥当な成績評価基準が定まればより簡略化し、明快な表となろう。

成績評価法や解説は各項目別に配置した。この方が実際に使うには便利と考えたからである。手関節機能評価表には一項目設けた。母指対立機能評価は関係する外傷、疾患が多いので共通書式で行うこととした。また共通書式、腕神経叢損傷では評価がしやすいよう図を追加した。

細かい点では氏名、カルテ No.などの記入様式の統一に努め、図の大半は新たに書いて、より使いやすいものに入れ換えた。また評価表を見やすくし、評価表の枚数を少なくするためサイズを社会標準の A4 版とした。

機能評価表の理想にはまだ多くの道程がある状態と考えるが、会員諸氏の御意見を今後とも集約して、さらにより機能評価表に仕上げていきたい。

最後にこの改訂版作成にたずさわっていただいた機能評価委員会の諸先生を紹介し（敬称略）、その労をねぎらいたい。

平成6年度～平成8年度委員

担当理事 石井 清一（平成6年度）
平澤 泰介（平成7、8年度）
顧問 平澤 泰介（平成6年度）
委員 薄井 正道、藤 哲、富田 泰次
中村 蓼吾（委員長）、浜田 良機
松崎 昭夫

平成9年度委員

担当理事 平澤 泰介
委員 石田 治、薄井 正道（委員長）
勝見 泰和、富田 泰次
浜田 良機、村上 恒二

1998年4月6日

日本手の外科学会機能評価委員会

前委員長 中 村 蓼 吾

現委員長 薄 井 正 道